

「望み見る喜びの中で」

ルツ記
ヘブル人への手紙

第4章 13節～17節
第11章 13節

説教 本庄侑子 伝道師

ある時、1人のおばあちゃんがつぶやきました。「ああ、私は神様の愛の中で生きてきたんだなあ。」腕の中には、生まれたての赤ちゃんがすやすやと眠っていました。とってもあったかくて、柔らかくて、重たい赤ちゃん。これまでの人生を包みこんできた神様の愛のあったかさ、柔らかさ、重たさを感じて、おばあちゃんは大切に、大切に、抱きしめました。

おばあちゃんの名前はナオミさん。ナオミさんにはとっても悲しい過去がありました。大好きだった旦那さんが先に死んでしまった、という過去です。旦那さんとの間には二人の男の子がいました。ナオミさんは歯をくいしばって働いて、寝る間も惜しんで子どもたちを育てました。やがて子どもたちは仕事ができる年になり、結婚もしました。ナオミさんは、孫が生まれる日を楽しみにしていました。でも、二人の子どもたちが次々と死んでしまいました。ナオミさんは信じたくありませんでした。「私の人生、何の意味もなかったの？」

ナオミさんは家族4人で外国に移り住んでいました。1人になったナオミさんは自分の国に帰ることにしました。残された2人のお嫁さんたちにもさよならを言いました。「私のことはいから、新しい幸せを見つけてちょうだい。」旦那さんが先に死んでしまう悲しさが痛い程分かったので、2人には幸せになってほしいと思いました。でも、お嫁さんの一人はついていくと言って聞きません。お嫁さんの名前はルツさんと言いました。

ナオミさんがルツさんと自分の国に帰ると、たくさんの人たちが集まってきました。「ナオミ！久しぶり！元気にしてた？外国生活どうだった？」ナオミさんは、結婚したときのこと、みんなにおめでどうって言ってもらったときのこと、子どもたちが生まれたときのこと、家族4人で幸せな毎日が続いていくと思っていたときのこと、色々思い出して悲しくなりました。

ナオミさんは思わず叫びました。「ナオミなんて呼ばないで！」ナオミという名前には「楽しみ」という意味がありました。『何が「楽しみ」よ！神様は私の楽しみを全部奪って行かれたじゃない！私の名前は「マラ」よ！』マラは「苦しみ」を表す言葉でした。ナオミさんは周りの人を見ると、どうして私だけこんな苦しい目に、と怒りがわいてきました。

そんなナオミさんのために一生懸命働いてくれたのは、ルツさんでした。ルツさんに大切にしてもらいうちに、ナオミさんは人を大切にする心を取り戻していきました。そしてルツさんを結婚させてあげました。

ナオミさんの腕の中で、ルツさんと新しい旦那さんとの間に生まれた赤ちゃんが眠っています。苦しみの人生に思いがけずやってきた楽しみ。ナオミさんは、はっとしました。これまでの苦しみは全部、苦しみのフリをした楽しみだったんじゃないかって。「そうか、神様がこうやって全部を包んで、私の人生を意味あるもの、楽しいものにしてくださるんだ。」

ナオミさんは、神様がくださる毎日を大切に過ごそうと思いました。赤ちゃんをぎゅっと抱きしめて、神様を信じて、周りの人たちを大切に生きていきました。この赤ちゃんは、ダビデという王様のおじいちゃんになりました。そしてダビデ王様のまた先に、救い主イエス様がお生まれになりました。それが分かったのは100年以上先のこと、ナオミさんが死んだずっと後のことでした。

神様の計画は不思議です。私たちはずっと先にある神様の計画を楽しみに生きていったらいいのです。神様は計画の最後に、一番の楽しみを用意してくださっています。イエス様がもう一度来てくださるといふ楽しみです。その時、死んで眠りについた人たちを甦らせて天国に招いてくださいます。

この後、消防士さんやおまわりさんの所にお花を届けに行きます。みんなが届けるお花には不思議な力があります。神様を信じる人たちに大切にしてもらおうと、悲しくて苦しい心も、神様の愛でばーっと明るくなるんです。神様はみんなの周りの人たちにも伝えたいと願っておられます。神様の計画は進んでいるよ、あなたもその中にいるんだよ、安心して神様を信じて生きていったらいいんだよ、って。神様は、みんなに大切なお仕事をくださいました。神様を信じて、周りの人たちを大切に作る毎日を過ごせるように、お祈りしましょう。

(記 本庄侑子)